

生命倫理全体について (検討用たたき台)

生命倫理への対応（生命倫理専門調査会）

1. 議論の流れ

生命倫理全体像の把握

- ・ 生命倫理に関し行政として議論する内容及び範囲の設定
- ・ 生命倫理上の課題の整理
- ・ 生命倫理上の個別課題への対応状況の整理



生命倫理を議論する上での基盤

- ・ 生命倫理に関する共通の考え方・理念の抽出
- ・ 生命倫理上の課題への対応のあり方の整理



個別課題（ヒト受精胚の取扱いの在り方等）
の議論への反映

繰り返すことにより
の議論を

行政として対応すべき
生命倫理全体の体系化

生命倫理全体(2) 内容及び範囲の設定

「生命」の意味するところは何か

- ・ 生命科学を意味するのか
(この場合、「生命倫理」を「生命科学を進める上での倫理上の問題」として捉えることになる)
- ・ 生命そのものを意味するのか
(この場合、「生命倫理」を「生命に関する倫理上の問題」として捉えることとなる)
- ・ 人以外の生物も「生命」について

「倫理」の意味するところは何か

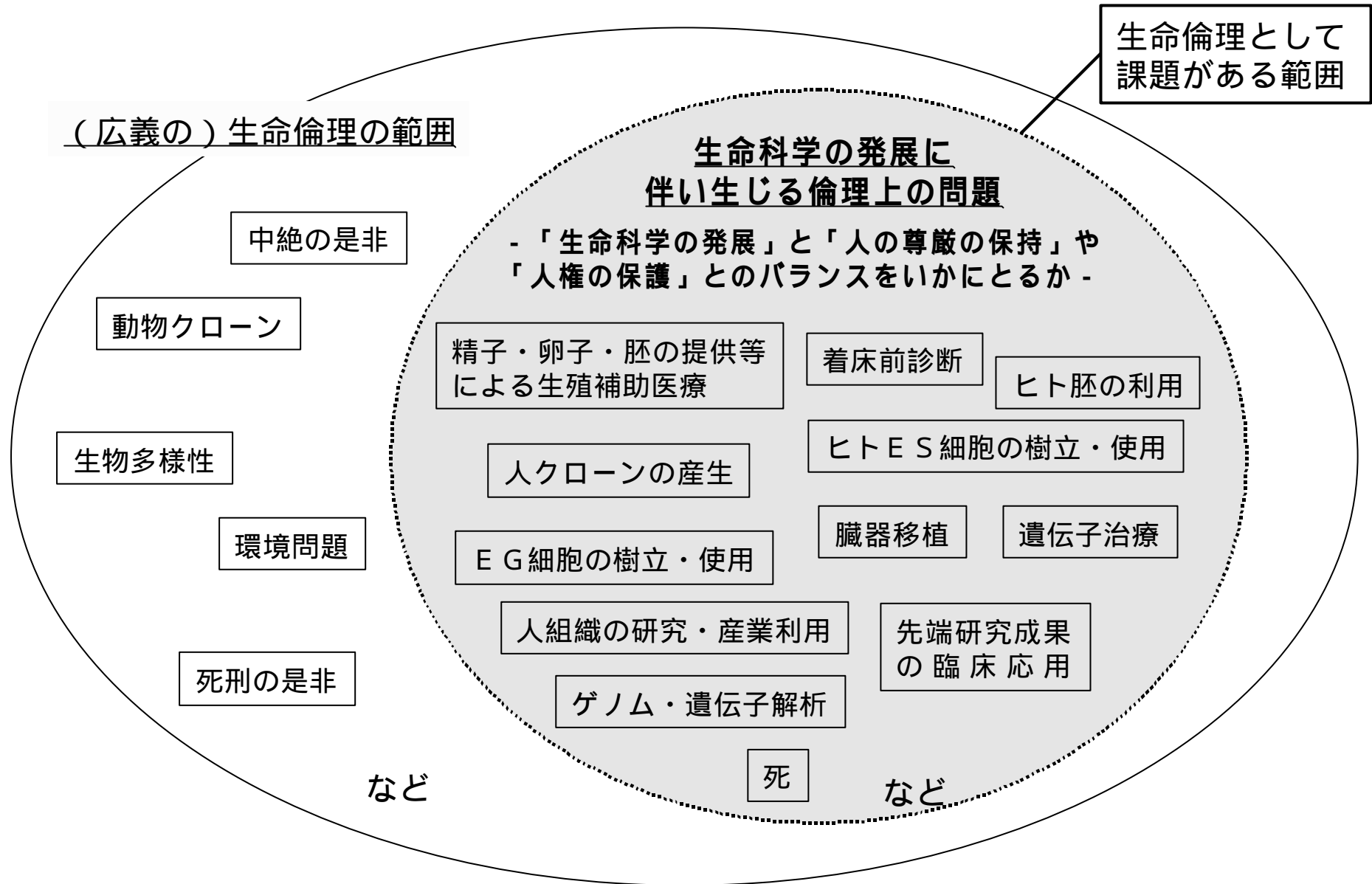
- ・ 語義としては「道徳の規範となる原理、人としての道(広辞苑)」とされている。
- ・ どのような人の行動が対象となるのか。
研究開発活動、医療活動、産業活動、行動一般等

環境問題や生物多様性の問題も対象に含まれてくるのか。

【検討の視点】

どのような局面で生命倫理が課題となっているのか。
行政としての対応が必要か
科学技術の観点からの対応が必要か

2 . 生 命 倫 理 上 の 課 題

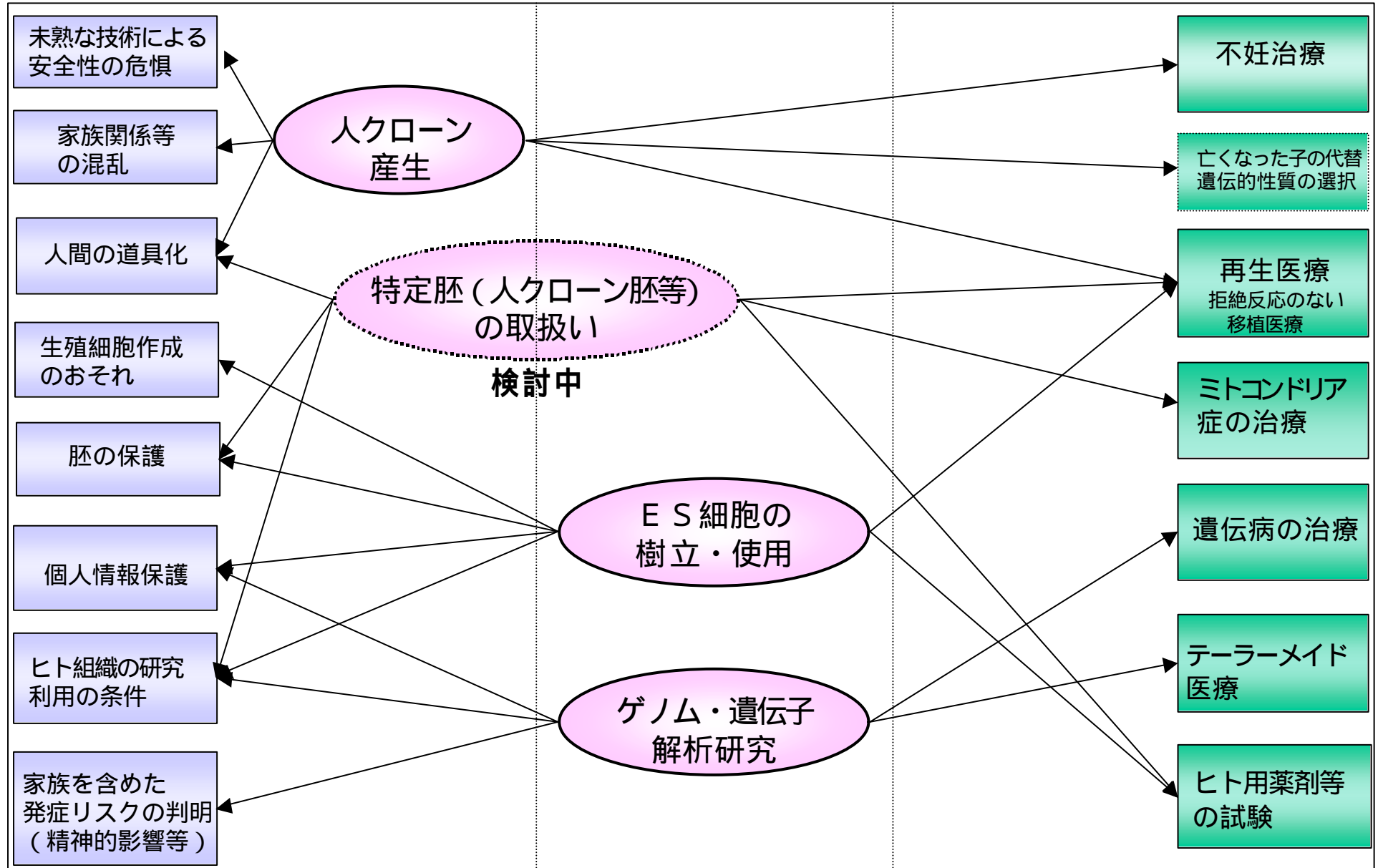


生命倫理上の個別課題への対応状況 (検討用たたき台)

(差し替え)

社会的問題性

有用性



(意見の集約・判断基準)

禁止

制限的容認

容認